

危険でムダな浅川ダムこれからどうなる？

危険な地滑り地に建設され、下流の水害にはほとんど効果のない浅川ダムの本体工事が3月の県議会で可決され、いよいよ工事が始まります。

日本共産党県議団には「もう、反対してもだめなの？」という疑問の声が寄せられています。県民の皆さんとごいっしょに、改めて浅川ダム問題について考えてみましょう。

Q 県は、模型実験や専門家の調査で、地すべり地でも大丈夫と言っていますか？

A 一昨年夏の模型実験では、わりばし棒状の木片と粒状の砂を流して、ダムの穴がつかまらないかの実験をただけで、地すべり地にダムを建設する影響については検証していません。全国では、奈良県の大滝ダムや埼玉県の高滝ダムのように、地すべり地に造ったダムが、完成後、試験的に水をためると次々に地滑りを起こし、今なお使えない事例が続出しています。

Q 浅川ダムの建設には、これからどのくらいの費用がかかるのですか？

A 現時点で県は、工事費予算として180億円を見込んでいます。地すべり対策だけでも40億円がかかり、今後ますます増えていく可能性があります。

Q 浅川で起こる水害はどのような性格のものですか？なぜ、浅川ダムは、治水効果がほとんど無いと言われるのですか？

A 古くは「暴れ天井川」と言われた浅川も、中流部が11mも掘り下げられているので、破堤する心配はありません。しかし、浅川流域の農地はほとんど宅地化されたため、雨水が浅川へ流入する速度は速まっています。さらに、最下流の千曲川との合流点では、千曲川の堤防が浅川より約7mも高く、洪水時には水門を閉めてポンプで浅川の水を千曲川に排水しますが、千曲川が増水すると排水できなくなり、行き場を失った浅川の水があふれてしまう「内水被害」が起こります。このため、上流にダムを造っても、ダムより下で浅川に流れ込む雨水や下流の内水被害にはほとんど効果がありません。

改修前の浅川



改修後の浅川



上・長野電鉄線
右・浅川
中下・信越線



上・新幹線
中・長野電鉄線
下・信越線
一番下が浅川

浅川の川底は最高で11m下がった

浅川が信越線の上を流れていた



3月12日の県議会採決を、1000名をこす傍聴のみなさんが見守りました

Q 浅川の治水対策には、なにが必要ですか？内水対策はどうなっていますか？

A 浅川の治水対策で重要なのは、都市型水害対策と内水対策です。都市型水害対策では、運動公園地下貯留地などの増設、浸透性舗装、雨水の各戸貯留、内水対策では、排水ポンプの強化や遊水地の設置、千曲川の改修促進などがあり、これらの対策はダムの賛否で意見が分かれていても、みんなが一致できる課題で、ダムよりも最優先すべき対策です。県は、内水対策の重要性を認めているにもかかわらず、対策は進んでいません。

一般質問する石坂ちほ県議



知事はゲリラ豪雨に「ダムが効果がある」と答弁しましたが、ダムはかえって内水被害を拡大し、逆効果では？



知事は就任後、穴あきダム建設へと方針転換し、その後は住民や専門家をまじえた十分な議論がされていない。

代表質問する和田あき子県議

Q ダム反対の動きが広がり続ける背景は何でしょう？

A 県は、浅川の水害を解決してほしいと願う流域住民に対して、「川幅を80mに拡幅するか、それができなければダムを造るしかない」と提案。また、浅川最下流の長沼地区住民にも「上流に浅川ダムを造れば、水害がなくなる」と説明してダム建設を了解させてきました。しかし、専門家の調査や議会での論戦、前県政時代の住民参加の活発な議論、現地調査などを通じて、ダムを造っても浅川の治水への効果が少ないことがわかりました。地すべり地へのダム建設の危険性も、多くの住民の共通認識になっています。昨年10月の長野市長選挙の際の「信毎」世論調査でも62%の長野市民が「浅川ダムは見直すべきだ」と答えています。

日本共産党県議会報告

2010年3月 臨時号

発行/日本共産党長野県議団
〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 長野県議会日本共産党控室
☎026-237-6266(直通) FAX026-237-6322
ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail jcpngkd@avis.ne.jp

